

# 特別支援学級（知的障害）における自ら自己調整学習を進める児童の育成を目指した指導・支援 メタ認知を促す働き掛けに着目して

岩沼市立岩沼南小学校

教諭 村形 舞香

## I. 主題設定の理由

中央教育審議会の2021年の答申では、「令和の日本型学校教育」として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すことが提言された。教師は、子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学習を支援する伴走者としての役割を果たすことが求められている。主体的に学習に取り組む際には、「メタ認知」、「動機付け」、「学習方略」の三つの要素を駆使して、学習者自身が自らの学習を調整しながら進める「自己調整学習」が重要である（伊藤、2019）。本研究では、主体的に学習に取り組む姿について、児童が学習活動に積極的に関わろうとし、自らの意思や判断に基づいて、自らの責任の下で行動する姿と捉える。学習における主体性は、学習に取り組む上で基盤となるものであり、特別支援教育においても重要なものである。

先行研究では、知的障害のある児童が主体的に学習に取り組むことを目指した実践が報告されている。高橋・竹林（2021）は、生活単元学習で劇づくりを行い、児童自身のアイデアの反映や可変性のある展開を働き掛ける教師の支援が、児童の主体的な学習につながることを明らかにした。また、筆者の過去の実践では、生活単元学習で夏祭りを行った。教師と児童が目標を共有し、振り返りを行うことで、児童が新たな方略を考え挑戦する姿勢が育まれ、振り返りシートの活用が児童の気付きや経験の蓄積という点で有効であることが示唆された（村形、2024）。しかしながら、こういった実践の多くは、活動や単元が限定的であり、その他の学習活動への般化という点で課題が残る。また、知的障害のある児童は、知的機能や適応機能といった認知的特性から、自己の得意・不得意や学習の進捗状況の把握や、目標設定への困難さがある。そのため、自己調整学習を進める上で、主にメタ認知において困難さが見られると思われる。知的障害のある児童の学習指導においては、学習への主体的な参加を促すとともに、自分の学びをメタ認知し、成果に結び付けるための自己調整の力をいかに育成するかという二重の課題があると考えられる。

そこで、本研究では、知的障害のある児童が自己の達成度の把握や目標設定を適切に行うという自己調整学習の「メタ認知」に着目した。児童の主体性や自律を尊重して働き掛ける「支援」の視点から、児童が自己調整学習を進めるための「指導」の手立てを検討することを目標として、本主題を設定した。

## II. 研究の目標

知的障害のある児童が自ら自己の達成度の把握や目標設定を適切に行い、日常的に自己調整学習を進めることができるようになるための効果的な指導の手立てについて検討する。

## III. 方法

### 1. 対象

本校特別支援学級（知的障害及び病弱・身体虚弱）に在籍する対象児童3名は（以下、A児、B児、C児とする）、いずれも2025年8月現在5年生で、療育手帳を保持している。本実践開始時の2025年4月時点での児童の実態については次の通りである。A児は、正答するまで粘り強く取り組めるが、解答を間違ったり、経験の無いことや分からないことに出会ったりすると涙を流し、活動が滞ることがあった。B児は、初めてのことにも関心をもって取り組めるが、苦手意識がある活動に出会うと、取り組みを避けることがあった。C児は、入学してから徐々に発語が増え、4年生時から3語文程度の言葉を話したり、言いたい単語を筆談で伝えたりすることができるようになってきた。友達の行動の模倣ができるが、C児がやりたいことやその理由を問うと返答が難しいことがあった。

## 2. 倫理的配慮

上述した全家庭より、個人が特定されない記載及び写真等の掲載への同意を得た。

## 3. 実践の概要

### 自己の達成度の把握を適切にできるようにするための指導

#### (1) 単元名

国語『今日のニュース』を書こう

#### (2) 実施期間

2025年4月から同年7月時点で毎登校日の4時間目の授業終了後に実施

#### (3) ねらい

1日の学習内容や気持ちについて振り返り、短い文章で具体的に記述することができる。

#### (4) 概要及び指導の手立て

4時間目までの授業終了後、連絡帳の「今日のニュース」欄に、学習内容や学習感想などについて、短い文章で記述させた (Figure1-1)。自力での作文ができない時には、筆者が書きたいことを児童から聞き取り、文章化してなぞり書きできるように書いたり、話したりして児童に提案した。児童らは、1年生だった2021年4月から取り組んできており、2025年4月時点では、学習内容を自力で書けるようになっていた。そこで、自力で作文させた後、「どういうこと?」、「どう思った?」、「どうやったらできた? (コツ、作戦など成功した時の学習への取り組み方)」、「次はどうしたい?」と問い掛けて児童の発言を書き加えるように促したり、詳しい記述が見られたら「何をしたのか分かりやすいね」、「次の目標も書かれていいね」などと価値付ける声掛けをしたりした。

Figure 1-1 連絡帳の様式  
四角で囲んだ部分が「今日のニュース」

### 自己の目標設定を適切にできるようにするための指導

#### (1) 単元名

自立活動「自分の課題に向き合おう～目標を立てて努力しよう～」

#### (2) 実施期間

2025年4月から同年7月現在 合計3時間の実施。

#### (3) ねらい

自分が困っていることや苦手としていることに気付き、改善や克服をしようとする事ができる。【心理的な安定

#### 2-(3)】

#### (4) 概要及び指導の手立て

新年度開始や (前期、後期)、行事や学習活動ごとに (運動会、水泳学習等) ワークシートに目標を記入させた (Figure1-2)。前期の目標設定は自分の力で書かせたが、児童の記述内容を受け、運動会の目標設定以降は、筆者との対話を行った。「嫌なこと、心配なこと、苦手なこと」といった児童が自分の課題点に気付けるように働き掛けた上で、「目指す姿 (どうなりたいか)」、「そのために頑張ること」について考えさせた。

適切な目標設定を促すため、水泳学習については、学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引 (三訂版)」と昨年度までの児童の実態を参考に、合格基準を示す級位表を作成した。「みんなでめざそう水の呼吸コントロールのみち」と名付け、10段階で提示した (Figure1-3)。自分がどのような運動ができていないか考えさせ、目標を設定させた。

Figure 1-2 水泳学習の目標

級位	みち	ないよう
10	みずになれる。(みずをかける、みずのなかでからだをうごかす、あるく、とぶ)	
9	3～5びょう かおをみずにつけて、はなからいきをはく。(こきゅうのコントロール)	
8	みずによく、じめんからあしをはなす。	
7	みずによく、いきをすってからだをのぼす (ふしうき、せうき、くらげうき)。	
6	みずによく、かべをかってからだをのぼしてすむ (けのび)。	
5	みずによく、かべをかってからだをのぼしてあしをうごかしてすむ (バタあし)。	
4	みずのなかにもぐる。(すいちゆうじゃんけん・にらめっこ、たからさがし、わくぐり、パブリング、ほぶりんぐ)	
3	手を右左こうごまわして水をかきながら、バタあしですむ (クロール)。	
導入	クロール、ひらおよぎ	

Figure 1-3 水泳学習 級位表

## 4. 分析について

2025年4月から7月に行った二つの実践における各児童の記述内容及び様子を分析対象とした。

まず、2025年4月から2025年7月の合計69～71日間における、各児童の「今日のニュース」の記述内容を1文ずつに分け、1文の中にどのような内容が書かれているか単語ごとに整理した(児童により登校日数差が生じた)。文部科学省(2017)による学習評価の三つの観点(知識・技能、思考・判断・表現、学びに向かう力・人間性等)を参考に、児童の記述に基づいて次の五つの観点を設定し、分類した。①活動・関わり(やったこと、誰とやった)、②成果(がんばった、できたこと、できなかったこと、前と比べてどうだった)、③方略・気付き(どうするとできたか、難易度・理解・気付き)、④感情・態度(気持ち)、⑤今後の見通し(楽しみなこと、またやりたい、次はどうしたい)に分類し、各月の出現頻度及び割合を算出した。例えば、「プールきもちかった。次はもぐるれんしゅうします。」という記述内容の場合は、「プール」は①活動・関わり(やったこと)、「きもちかった」は④感情・態度(気持ち)、「次はもぐるれんしゅうします。」は⑤今後の見通し(次はどうしたい)としてカウントした。

次に、各児童が記述した目標に関連する「今日のニュース」の出現頻度及び記述内容の観点を算出し、関連するエピソードや筆者との対話を抽出し、自己調整学習を促すために有効な手立てという観点から分析した。

#### IV. 結果

##### 1. 自己の達成度の把握を適切にできるようにするための指導における「今日のニュース」記述内容の月別観点別分類及び観点別構成比の推移

###### (1) A児の「今日のニュース」記述内容の月別観点別分類及び観点別構成比の推移

A児は、「やったこと」が最も高い頻度を維持した(Table1-1)。特に6月は、「できたこと」、「気持ち」、「次はどうしたい」の三つが多かった。このうち「成果」は4月から6月にかけて急増した。「今後の見通し」も4月と比較して6月に大幅に増加し、7月には再び4月と同水準に戻ったが五つの観点の中では「活動・関わり」に次ぐ高い水準を保っていた(Figure2-1)。「方略・気付き」の記述は全期間を通じて最も低かった。

Table 1-1 A児の「今日のニュース」記述内容月別観点別分類

観点	小観点	4月	5月	6月	7月
1 活動・関わり	やったこと	20	22	21	18
	誰とやった	1	4	0	0
3	がんばった	0	0	1	1
4 成果	できたこと	0	7	11	2
	できなかったこと	0	0	2	1
	前と比べてどうだった	2	3	1	0
7 方略・気付き	どうするとできたか	0	2	1	0
	難易度・理解・気付き	1	2	2	2
9 感情・態度	気持ち	4	5	10	5
	楽しみなこと	0	0	0	0
11 今後の見通し	またやりたい	4	1	1	2
	次はどうしたい	3	7	17	5

A児の記述内容における五つの観点別構成比の推移 (2025年4月～7月)

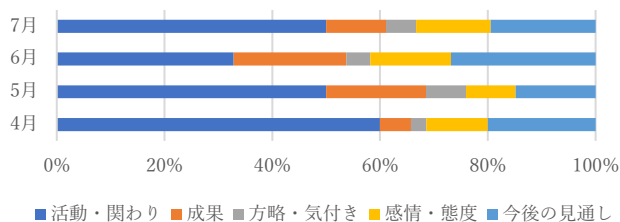


Figure 2-1 A児の記述内容における5つの観点別構成比の推移

###### (2) B児の「今日のニュース」記述内容の月別観点別分類及び観点別構成比の推移

B児は、「やったこと」が最も高い頻度を維持した(Table1-2)。「感情・態度」は4月及び5月が最も高かったが、その後徐々に減少した(Figure2-2)。一方、「成果」は4月及び5月と低い水準で推移した後、6月以降に急増し

Table 1-2 B児の「今日のニュース」記述内容月別観点別分類

観点	小観点	4月	5月	6月	7月
1 活動・関わり	やったこと	18	21	21	18
	誰とやった	2	1	1	0
3	がんばった	1	0	4	3
4 成果	できたこと	1	2	6	1
	できなかったこと	0	0	1	0
	前と比べてどうだった	0	0	0	2
7 方略・気付き	どうするとできたか	1	2	0	1
	難易度・理解・気付き	1	4	3	2
9 感情・態度	気持ち	13	13	9	5
	楽しみなこと	0	0	0	0
11 今後の見通し	またやりたい	0	1	0	0
	次はどうしたい	0	1	1	1

B児の記述内容における五つの観点別構成比の推移 (2025年4月～7月)

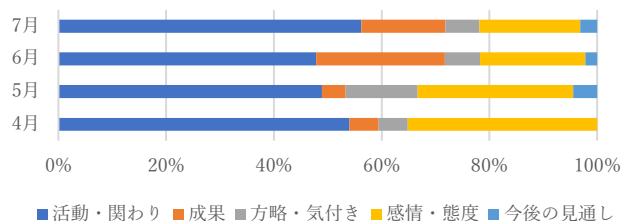


Figure 2-2 B児の記述内容における5つの観点別構成比の推移

た。「今後の見通し」は4か月を通じて低く推移し、4月は記述が無かった。「方略・気付き」は5月に一時的な増加が見られた。

### (3) C児の「今日のニュース」記述内容の月別観点別分類及び観点別構成比の推移

C児は、「活動・関わり」が最も高い頻度を維持した（Table1-3）。次いで頻度が高かったのは「成果」で同程度の推移だった。4か月を通じて「感情・態度」及び「今後の見通し」は、低く推移した。一方、「方略・気付き」は、4月は記述が無かったが、5月以降に微増した（Figure2-3）。

Table 1-3 C児の「今日のニュース」記述内容月別観点別分類

観点	小観点	4月	5月	6月	7月	
1	活動・関わり	やったこと	15	18	19	14
		誰とやった	1	2	4	2
		がんばった	3	2	2	3
4	成果	できたこと	2	6	4	1
		できなかったこと	0	0	0	0
		前と比べてどうだった	0	0	0	0
7	方略・気付き	どうするとできたか	0	2	0	1
		難易度・理解・気付き	0	0	2	3
9	感情・態度	気持ち	3	1	4	2
10	今後の見通し	楽しみなこと	1	0	0	1
またやりたい		1	0	0	0	
次はどうしたい		1	1	1	2	

C児の記述内容における5つの観点別構成比の推移  
(2025年4月～7月)

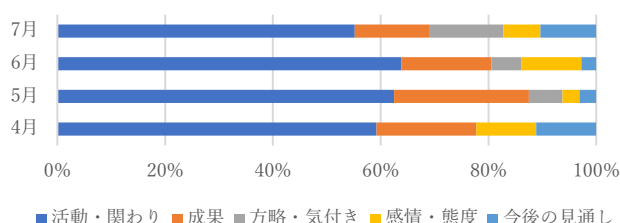


Figure 2-3 C児の記述内容における5つの観点別構成比の推移

## 2. 自己の目標設定を適切にできるようにするための指導における各児童の目標設定に関する代表的なエピソード

### (1) A児の目標設定に関する代表的なエピソード

運動会の目標設定では、徒競走について、苦手なことは「速く走る」、目指す姿は「地面を踏む」と書いた（Table2-1）。筆者が「どうすれば速く走れるのかな？」とA児に問うと、体育の徒競走の練習の時に「地面を踏むように走る」と教わったことを話して書いた。追いかけて玉入れの苦手なことについてA児に問うと、「うまく投げられないんだよ」と話し、「玉が入らないこと」と書いた。筆者がA児に「玉を投げられるようになるためにどうする？」と聞くと、「バスケットのゴールで練習しようかな」と言い、目指す姿は「体育で、かべでれんしゅうする（壁にボールを投げる）」と、頑張ることは「バスケットでれんしゅうする（バスケットシュート練習）」と書いた。

水泳学習の目標設定では、A児は「去年は〇〇先生に手伝ってもらって頭まで潜れたんだよね」などと話しながら、心配なこと・嫌なことは「顔を水につけて3から5秒鼻から息を吐く」と書いた。目指す姿を書く際には、A児は「これどうやんの？」と級位表を指差して言った。筆者が「口から吸って、鼻からふーって息を吐いて、手と足を伸ばすってことだよ」などと動作で表現しながら説明をすると、A児は、目指す姿に「水に浮く。息を吸って体を伸ばしてすすみたい」と書いた。がんばることに「水の中でからだをうごかす」と書いていたため、「水の中で体を動かすってどういうこと？」と筆者が聞いた。A児が手足を動かす動作をしたため、筆者が「クロールみたいの手を回して進むってことだね」と言語化して共有した。

Table2-1 A児が記述した目標

筆者との対話 時期・内容	介入なし		介入あり	
	2025年4月 前期の目標 学習面	2025年5月 徒競走	運動会の目標 追いかけて玉入れ	2025年6月 水泳学習の目標 学習面
心配なこと・苦手なこと・嫌なこと	無記入	速く走る。	玉が入らないこと	3～5秒顔を水につけて息を吐く。
目指す姿 どうなりたいか	漢字覚える。	地面を踏む。	体育で、壁で練習する。	水に浮く。息を吸って、体を伸ばして進みたい。
そのために 頑張ること	漢字毎日やる。	毎日外で走る。	バスケットゴールで練習する。	水の中で体を動かす。

### (2) B児の目標設定に関する代表的なエピソード

前期の目標設定では、目指す姿は「理科と外国語を頑張る」、そのために頑張ることは「理科と外国語」と書いたが、目指す姿と頑張ることがほとんど同じ内容であった。

運動会の目標設定では、筆者に質問することなく書き進めていたが、徒競走及び追いかけ玉入れどちらも目指す姿と頑張ることが同じであった。B児は具体的な練習方法を思い浮かべることができていないと考えた筆者は、「毎日走るときにどんなことを意識して頑張る？」とB児に聞くと、「うーん…地面を踏む？」と答えた。筆者が「いいね。じゃあ『地面を踏む』ってここに書いて」と促すと、頑張ることに書き加えた。

水泳学習の目標設定では、初めに、心配なこと・嫌なことに「人に水をかけられるときがいやなこと」、目指す姿に「水をよける」、そのために頑張ることに「水をよけることをがんばる」と書き進めていた。筆者は、水が掛かることが嫌だという気持ちへ共感を示しつつ、B児に級位表を見るように促した。筆者が「去年どうだったっけ？鼻くらいまではできたよね？」と去年できたことを想起させると、嫌なことに「プールで息をぶくぶくができない」と書き加えた。筆者が「例えば、洗面器を使って、口から息吸って、鼻からぶくぶくする練習するとか、お風呂入るときにやるとか」と解決のための具体例を示すと、B児は、目指す姿と頑張ることに「まい日お家でばけつをつかってれんしゅうをする(がんばる)」と書いた。

Table2-2 B児が記述した目標

筆者との対話 時期・内容	介入なし		介入あり	
	2025年4月 前期の目標 学習面	2025年5月 徒競走	運動会の目標 追いかけ玉入れ	2025年6月 水泳学習の目標 学習面
心配なこと・苦手なこと・嫌なこと	無記入	スタートの時間が苦手。	玉が入らないこと。	人に水を掛けられる時が嫌なこと。プールで息をぶくぶくができない。
目指す姿 どうなりたいか	理科と外国語を頑張る。	毎日、ニコタイと昼休みに走る。	体育で玉入れを練習する。	水をよける。 毎日お家でバケツを使って練習する。
そのために 頑張ること	理科と外国語	毎日走ることが頑張る。地面を踏む。	体育で玉入れを頑張る。	水をよけることをがんばる。毎日お家でバケツを使って練習する。

### (3) C児の目標設定に関する代表的なエピソード

C児は、入学してから徐々に発語が増え、4年生時から3語文程度の言葉を話したり、言いたい単語を筆談で伝えたりすることができるようになってきていた。運動会及び水泳学習の目標を一人で書き進めることが難しい時には、「〇〇先生(筆者の名前)、教えて」と支援を要請することもできたため、C児と対話しながら書きたいことを考えるようにした。運動会の目標設定では、筆者が「徒競走は走る(腕を振る動作)。走るの得意？」と動作を交えて聞くと、C児は首を振った。筆者は「苦手なんだ。じゃあ苦手なことに『走る』って書けるね」と言うと、C児は「走る」と書いた。

水泳学習の目標設定では、級位表を見ながらC児が一人で書き進めた。水着の着替え方など泳力以外のことについて書かせる予定だった項目にも、嫌なことは「水の中で浮かぶこと」など、級位表を見てC児自身が選択して書き進めた。

Table2-3 C児が記述した目標

筆者との対話 時期・内容	介入なし		介入あり	
	2025年4月 前期の目標 学習面	2025年5月 徒競走	運動会の目標 追いかけ玉入れ	2025年6月 水泳学習の目標 学習面
心配なこと・苦手なこと・嫌なこと	蔵王合宿	走る	走る	水が怖い。水の中で浮かぶこと
目指す姿 どうなりたいか	山登り頑張る。	1位を取りたい。	しっぽをよく見てとる	顔をつける。地面から足を離す。
そのために 頑張ること	外で元気に遊ぼう。	玉入れ頑張る。	外遊ぶ(外で遊ぶ)	バタ足一人のできるように。水の中を歩く。泳ぐこと。

## 3. 各児童の目標と「今日のニュース」との関連について

### (1) A児の目標に関連した「今日のニュース」の記述

A児が「今日のニュース」で、運動会に関連する記述をした日数は、6日間であった(Table3-1)。2025年5月14日には、朝の運動の時間に、A児、B児、C児の3人で追いかけ玉入れの練習をした。A児は最初、「運動で玉入れかごに玉を入れました」の記述のみだった。筆者が「どうやったらかごに玉が入ったの？コツは？」と聞くと、A児は玉をかごに入れた時の状況を話し始めたため、筆者が「いいね。書いて、書いて」と促すと、A児は「コツはかごの後ろをねらう」と書き加えた。2025年5月16日にも、同様の対話を行った。2025年5月21日には、

「今日のニュース」とは別に目標に対する振り返りをする、A児は一人で書き進めた。「玉入らない。だめだった。運動の自由時間のときまいにちれんしゅうする。」と書き、運動会を終わった後もバスケットのシュート練習を続けている様子を2025年5月27日に記述した。

Table3-1 運動会に関連するA児の「今日のニュース」

日にち	「今日のニュース」記述	小観点分類	出現数
1 2025年4月21日	50メートルを走りました。	1 やったこと	1
2 2025年5月1日	スタート位置の <u>べんきょう</u> しました。こつをおしえてもらいました。わかりやすかった。	1 やったこと 8 難易度・理解・気付き	2 1
3 2025年5月13日	<u>らじおたいそう</u> <u>全校</u> でらじおたいそうできました。	1 やったこと 2 誰とやった 4 できたこと	1 1 1
4 2025年5月14日	運動で玉入れかごに玉を入れました。 <u>コツ</u> はかごの後ろをねらう。	1 やったこと 7 どうするとできたか	1 1
5 2025年5月16日	運動 玉入れ練習しました。かごに3こ入った。こつは、はさみうち。	1 やったこと 4 できたこと 7 どうするとできたか	1 1 1
6 2025年5月27日	バスケットゴールに7回入れました。まいにちバスケットボールやります。	4 できたこと 12 次はどうしたい	1 1

A児が「今日のニュース」で、水泳学習に関連する記述をした日数は、7日間であった (Table3-2)。A児は水泳学習が始まってからずっと、鼻から息を吐きながら頭頂部まで潜ることを目指していた。2025年6月27日の水泳学習では、底に落ちた「宝」を拾う活動をした際、頭頂部まで完全に水中に入り、何回も「宝」を拾うことができた。A児の「今日のニュース」に、「できたこと」に関連する文章を3文書いていた。この日のA児の連絡帳には、「頭までもぐれたんだよ！と家でもうれしそうに報告してくれました。」というA児の保護者による記述があった (Figure3-1)。

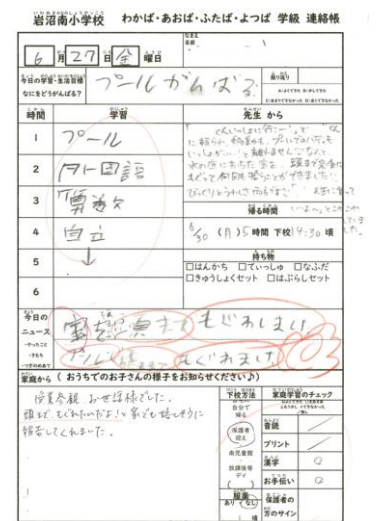


Figure 3-1 A児の連絡帳「今日のニュース」

Table3-2 水泳学習に関連するA児の「今日のニュース」

日にち	「今日のニュース」記述	記述内容分類	出現数
1 2025年6月16日	プール きもちかった。次はもぐるれんしゅうします。	1 やったこと 9 気持ち 12 次はどうしたい	1 1 1
2 2025年6月18日	プールでもぐるときかおまでもぐれました。うれしかった。次はあたままでもぐります。	1 やったこと 4 できたこと 9 気持ち 12 次はどうしたい	1 1 1 1
3 2025年6月20日	プールでおでこまでもぐれました。うれしかった。次はあたままでもぐります。	1 やったこと 4 できたこと 9 気持ち 12 次はどうしたい	1 1 1 1
4 2025年6月23日	プールであたままでもぐりました。うれしかった。次はけのびやります。	1 やったこと 9 気持ち 12 次はどうしたい	1 1 1
5 2025年6月25日	たからさがし 楽しかった。もぐってとります。	1 やったこと 9 気持ち 12 次はどうしたい	1 1 1
6 2025年6月27日	宝をとれました。頭までもぐりました。プールであたままでもぐりました。	4 できたこと	3
7 2025年7月2日	プール フラフープバタ足で進みました。フラフープ バタ足で練習します。	1 やったこと 12 次はどうしたい	1 1

(2) B児の目標に関連した「今日のニュース」の記述

B児が「今日のニュース」で、運動会の練習に関連する記述をした日数は、6日間であった (Table3-3)。B児は、交流学級での作戦会議に参加し、かごを背負って逃げる役割を自分から立候補して決まった。2025年5月14日、

前述したように、筆者が A 児と同様に B 児にも追いかけ玉入れのコツを聞き取った。前や後ろを見ながら走る動作をした。筆者が「前だけじゃなくて後ろも見て走ると敵が見つかるんだっけ」と言うと、B 児は「こつはかごをうしろとまえを見てやりました」と記述した。2025 年 5 月 21 日には、「今日のニュース」とは別に目標に対する振り返りをする、B 児は一人で書き進めた。B 児は、「たまいれのかごのまえとうしろのさくせんできました。でもうまくいかなかった」と記述し、競技の時に敵に囲まれて動けなかったことを筆者に話した。

Table3-3 運動会に関連する B 児の「今日のニュース」

	日にち	「今日のニュース」記述	記述内容分類	出現数
1	2025年4月21日	体育で50メートルをやりました。楽しかったです。ほんきではしりました。	1 やったこと 9 気持ち	2 1
2	2025年5月1日	体育で100メートル走をやりました。スタートのこつをおしえてくれました。うれしかったです。	1 やったこと 9 気持ち	2 1
3	2025年5月7日	体育たまいれをやりました。楽しかったです。	1 やったこと 9 気持ち	1 1
4	2025年5月13日	体育だんたいしゅもくをやりました。楽しかったです。	1 やったこと 9 気持ち	1 1
5	2025年5月14日	運動でたまいれをやりました。楽しかったです。こつはかごをうしろとまえを見てやりました。	1 やったこと 9 気持ち 7 どうするとできたか	1 1 1
6	2025年5月15日	体育おいかけたたまいれをやりました。まえうしろのさくせんをやりました。	1 やったこと 7 どうするとできたか	1 1

B 児が「今日のニュース」で、水泳学習に関連する記述をした日数は、5 日間であった (Table3-4)。B 児は、昨年度小学 4 年時は、入水や水中を歩くこと、顔を水に付けることを怖がり、教師の手助けや手すりが必要だった。今年度初めての水泳学習をした 2025 年 6 月 16 日、B 児は、教師の手助け無く一人で入水できたとうれしそうにしていた。その後、2025 年 6 月 27 日の学習までの間に、A 児や B 児と、洗面器を使い、口から息を吸って顔を水に付けて鼻から息を吐く練習をした。B 児は水中を走ることや顔を水に付けること、さらに水中じゃんけんにも挑戦してできるようになっていった。底に落ちた「宝」を拾う活動では、B 児は水中に入り、宝を拾うことができ、この出来事を「今日のニュース」にも記述した。

2025 年 7 月 2 日、ビート板を使って体を伸ばし、フラフープの中をくぐる活動を行った。B 児は、地面から足を離し、体を伸ばすことが難しい様子で、フラフープをくぐる時に体が丸まり、フラフープに脚が引っ掛かった。筆者が脚の曲がり具合やどのくらいの角度まで伸ばすとよいかを手で示すなどして励ました。何度も挑戦し、フラフープに引っ掛からずに通ることができ、「今日のニュース」には「チャレンジをやったらできるようになりました」と記述した (Figure3-2)。2025 年 7 月 7 日が B 児にとって最後の入水となり、B 児はバタ足について「もうできるようになった。」と記述した。

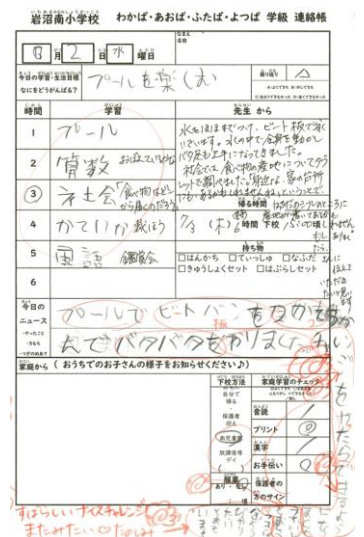


Figure 3-2 B 児の連絡帳「今日のニュース」

Table3-4 水泳学習に関連する B 児の「今日のニュース」

	日にち	「今日のニュース」記述	記述内容分類	出現数
1	2025年6月16日	プールで1人でプールに入りました。うれしかったです。	1 やったこと 2 誰とやった 9 気持ち	1 1 1
2	2025年6月27日	プールでボールをとれました。とれたのがうれしいです。	1 やったこと 4 できたこと 9 気持ち	1 1 1
3	2025年7月2日	プールでビート板をつかってうかんでバタバタをやりました。チャレンジをやったら、できるようになりました。うれしいとおもう。つぎは金ようびやりたいとおもいます。	1 やったこと 7 どうするとできたか 6 前と比べてどうだった 9 気持ち 7 次はどうしたい	1 1 1 1 1
4	2025年7月4日	プールでビート板をつかっておよぎました。なんと！！ビート板をつかってフラフープをつかっておよぎました。またなんとフラフープの中にはいれました。うれしいとおもいます。	1 やったこと 4 できたこと 9 気持ち	2 1 1
5	2025年7月7日	プールでビート板をつかっておよぎました。もうできるようになった。	1 やったこと 6 前と比べてどうだった	1 1

### (3) C児の目標に関連した「今日のニュース」の記述

C児が「今日のニュース」で、運動会の練習に関連する記述をした日数は、6日間であった (Table3-5)。2025年5月14日、A児、B児と同様に追いかけ玉入れの練習をした。C児はその途中で体育館の端に行きうつむいて座り込んだ。筆者が理由を聞き取ると、しっぽを取れなかったことが嫌だったとのことだった。A児を誘って作戦を立てた後、C児と筆者と一緒に走り、A児と協力したところ、C児は他児のしっぽを取ることができた。「今日のニュース」を書く際には、「誰とやったっけ?」、「かごは誰がやったっけ?」、「どうやったっけ?」など場面を細かく分けて筆者がC児に聞いていき、書くことを促した。筆者が「何作戦だったっけ?」と言うと、C児は答えなかったため、筆者が「B君とはさむ作戦だったね」と言い、鉛筆をC児らに例えて運動した当時の様子を見せた。筆者は、「忘れないように書いておこう。は、さ、む、さ、く、せ、ん」と、C児に伝えたとC児が書き加えた (Figure3-3)。2025年5月21日には、「今日のニュース」とは別に目標に対する振り返りをする時、C児は筆者を呼び、一緒に書きたいという意思表示をした。筆者がC児に「(苦手なことに書いてあった) 走る、どうだった?」と聞くと、C児は答えなかった。筆者が「最後まで歩かないで走ったもんね」と運動会の様子を想起して言うと、C児は「うん」と言っとうなずいた。筆者「最後まで走ってどう思った?どんな気持ち?」と聞くと、C児が「うれしい」と言った。筆者は「じゃあ『うれしかった』と書こう」と言うと、C児も「うれしかった」と記述した。

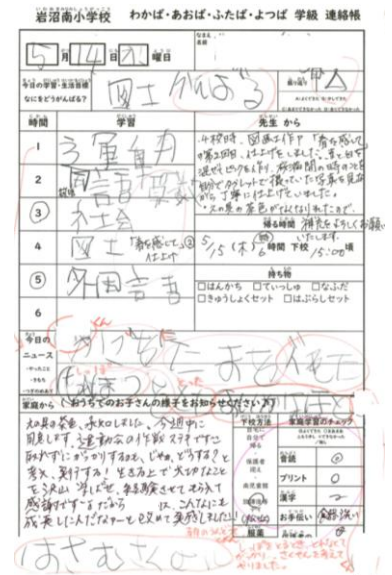


Figure 3-3 C児の連絡帳「今日のニュース」

Table3-5 運動会に関連するC児の「今日のニュース」

日	日にち	「今日のニュース」記述	記述内容分類	出現数
1	2025年4月10日	体育 50m走 <u>がんばりました。</u>	1 やったこと 3 がんばった	1 1
2	2025年5月1日	体育 徒競走 <u>はりました。</u>	1 やったこと	1
3	2025年5月12日	体育でうんどうかい <u>話し合い</u>	1 やったこと	1
4	2025年5月13日	体育で 玉入れ <u>がんばりました。</u>	1 やったこと 3 がんばった	1 1
5	2025年5月14日	Bくん かごに <u>たまを 入れた。</u> しっぽを <u>とった。</u> <u>まいか先生</u> とAくん <u>はさむさくせん</u>	4 できたこと 2 誰とやった 7 どうするとできたか	2 1 1
6	2025年5月15日	<u>まえはしる</u> 体育 <u>うれしかった。</u> <u>玉入れたい。</u>	7 どうするとできたか 1 やったこと 5 気持ち 12 次はどうしたい	1 1 1 1

C児が「今日のニュース」で、水泳学習に関連する記述をした日数は、4日間であった (Table3-6)。C児は見学等により、入水できたのは数回であった。2025年6月16日の水泳学習については、C児はプールサイドで見学をしていた。「プールで〇〇さんと〇〇先生と見ました。」という記述から、筆者が「何をみましたなの?」と聞くと、C児は「おうえん」と言った。筆者が「ああ!皆を見て応援していたってことだね」と言うと、C児はうなずいて「おうえん」と書き加えた。

Table3-6 水泳学習に関連するC児の「今日のニュース」

日	日にち	「今日のニュース」記述	記述内容分類	出現数
1	2025年6月16日	プールで〇〇さんと〇〇先生と見ました。 <u>おうえん</u>	1 やったこと 2 誰とやった	1 1
2	2025年6月20日	プール <u>〇〇さんと〇〇さんと〇〇先生と</u> <u>見学</u>	1 やったこと 2 誰とやった	1 1
3	2025年6月25日	プールで <u>一人で</u> <u>見学しました。</u>	1 やったこと 2 誰とやった	1 1
4	2025年7月9日	プール <u>入れました。</u> <u>バタあしビート板でうかびました。</u>	4 できたこと 1 やったこと	1 1

## V. 結果のまとめ

各児童の「今日のニュース」記述内容及び目標設定の記述傾向や成果は次のようにまとめられた。

A 児は、「今日のニュース」で活動内容に次いで、今後の見通しについて記述する割合が高く、2025年6月前後には成果に関する記述が増加した。その中心的な内容は、目標設定をした水泳学習に関することが多く、できたことや次はどうしたいかについて自分から具体的に記述することができた。目標設定をした運動会や水泳学習については、日々の学習で頑張ることを決め、どうするとできたか、次はどうしたいかについて自分から「今日のニュース」に記述することができた。運動会の目標に対する達成度を確認すると、うまくいかなかったことを記述し、これからどんな練習をするか具体的に決めて取り組む姿が見られた。

B 児は、「今日のニュース」で活動内容に次いで、感情・態度に関する記述が多く見られていたが、2025年5月以降は減少し、成果や次への見通しを記述する割合が高くなった。また、B 児は、目標設定の際に目指す姿と頑張ることを混同することが多かったが、水泳学習の目標設定で級位表の提示や練習方法の例示をした時は、今まで苦手意識があつてできなかったことに挑戦してできるようになる姿が見られた。苦手なことに挑戦して成果を感じた時には、以前の達成度との比較をし、さらにどうするとできたか、次はどうしたいかについて具体的に記述することができた。運動会の目標に対する達成度を確認すると、うまくいかなかったことを記述する姿が見られた。

C 児は、「今日のニュース」で活動内容に関する記述が最も多かったが、2025年5月以降、方略・気付きを記述する割合が高くなった。学習したことを具体的に想起させ、どのように取り組んだか言語化や文章化をすると、書き加えることができた。また、C 児は、何を書けばいいかわからない時は筆者と一緒に目標設定をしたがるが多かったが、水泳学習の目標設定で級位表を提示すると一人で書き進めることができた。運動会の目標に対する達成度を確認した際には、様子を具体的に想起させたり、気持ちを聞いたりすることで、書き加えることができた。

## VI. 考察

A 児及びB 児が、活動内容の記述のみならず成果や次への見通しにも着目するようになったことは、自らの学習や結果を客観視し、達成度を確認する視点が増えたと考えられた。また、C 児は、学習内容を具体的に想起させたり、言語化したりすることにより、方略について記述できた。このことは、自分が選択した方略を意識化する上で、教師による言語的な指導が有効であったと考えられた。これらのことから、これまで抽象的になりがちであった、目標や方略、達成度といったメタ認知に関わることを、「今日のニュース」や「級位表」を用いて、可視化、構造化することは有効であったと言えよう。特に、目標に対する達成度を確認する際には、「どう思ったか」、「どうするとできたか」、「次はどうしたいか」といった具体的な問い掛けを行うことで、児童は自己の方略を意識化し、具体的な修正につなげることが可能となると考えられた。

一方、結果のまとめから、自己調整学習における課題が、児童間で異なることが明確になった。A 児は、成果を受けて自己の到達度を評価し、目標設定や達成に向けた取り組みを段階的に見通すことができるが、自分が選択した学習方略について考える経験が不足していた。A 児が解答を間違えた時やわからない時に涙を流すのは、次の見通しが立たずに混乱している状態であると推測された。このことから、A 児には、「なぜできたか」、「どうするとできたか」といった問い掛けをすることで、自分が選択した学習方略を自覚させ、記述させることでメタ認知を促すような支援が有効であると考えられた。B 児は、目標設定に客観的な基準が必要であり、感情を重視する傾向から、具体的な成果に対する原因や改善策を考える経験が不足していた。B 児が苦手なことを避ける要因として、楽しくないと感じている、あるいは目指す姿が明確でないと推測された。このことから、B 児には、「なぜできたか」、「どうするとできたか」といった問い掛けや、「次は何をしたいか」、「なぜそうしたいか」といった次の見通しを考えさせる問い掛けが必要であると考えられた。C 児は、教師との対話による言語化が目標設定や記述の際に重要であり、自分が選択した方略や気持ちを自ら言語化し価値付ける経験が必要であると考えられた。これらのことは、児童それぞれの現在の自己調整能力や特性、課題点に応じて、焦点を当てるべき観点を定めた上で個別最適に働き掛ける必要性を示唆している。

従来、知的障害のある児童を対象にした実践においては、教師による実態把握が的確であったか、教材教具の開

発や環境調整といった教師による支援が有効であったかという検討が主で行われ、一定の成果を上げてきた。一方、関わる相手や場所、状況など環境が変わると難しいという課題が少なからず残されており、教師や特定の環境に依存した支援であったと思われる。今回の結果から、教師が児童の実態に合わせて環境を調整するという外的な支援だけではなく、児童自身が目標に向けた自分の学習への取り組み方についてメタ認知し、自律的に調整・実行する力の育成を重視した指導が必要であることを強く示唆している。つまり、従来の指導が「教師が、児童の実態に応じて学習の目標を設定し達成させるために支援方法を検討する」ことに重きを置いていたのに対し、今後は「児童それぞれが、自分の達成度を把握し、目標を定め、達成までに必要な行動を実行し、評価する」という児童自身が自分の実態をメタ認知しながら、自己調整学習に取り組めるように働き掛ける指導が重要である。実際、本研究で取り上げた3名の児童は、自己の達成度の把握、目標設定、達成までに必要な行動の実行、自分の行動の評価といった、自己調整学習を進める学びのサイクルの中で異なる課題を抱えていた。このことから、児童の実態把握の際には、学習活動において児童の重視する観点と思考が及んでいない観点は何かというメタ認知の視点から行う必要がある。教師は、単なる行動の援助者ではなく、学習に対して児童のメタ認知を促す対話や言語化を通して、主体的な学習を支援する伴走者としての役割を担うことで、児童の能動的な自己調整学習を促すことができると考える。

## VII.今後の課題

上述したように、本研究の結果は、知的障害のある児童の自己調整学習への取り組みが児童間で大きく異なり、児童の特性や発達段階に応じて、メタ認知を促す対話や言語化を働き掛ける指導が有効であることを示した。以下の2点を今後の課題として、継続的に検討する必要がある。

第一に、本研究で行った指導の効果が今後も維持されるか、他教科や日常生活、家庭など異なる環境下においても自発的に自己調整を行うことができるかどうかについて、経過を追うことである。学習活動の経験に伴って自己調整の力がどのように発達していくか明確にすることで、発達段階に応じた有効な支援について検討することが可能になると考える。

第二に、自己調整学習を促す有効な働き掛けだけでなく、環境設定にも目を向けることである。本稿では、筆者の働き掛けを重点的に取り上げた。代表的なエピソードを抽出することに留まり、筆者と児童の対話の内容は詳細なものではなかった。また、児童が自己調整できるようにと考えると日々の指導に当たる中で、無意識的であった何らかの環境設定が影響していた可能性もある。学習指導をしながら行うエピソードの記録方法についてはやや課題が残るが、自己調整学習に関する知見を広げるとともに、エピソードの記録方法についてより良い方法を探っていく。

## VIII.文献

- 1) 中央教育審議会（2021）「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）
- 2) 伊藤嵩達（2019）めあての提示や振り返りの工夫で、子どもが自ら学ぶ力を育む. VIEW21 教育委員会版. Vol. 3, p.22-23
- 3) 高橋望・竹林地毅（2021）知的障害のある児童の主体的な行動を促す生活単元学習の在り方—行事単元（劇づくり）の検討—特別支援教育実践センター研究紀要.vol19, 61-69
- 4) 村形舞香（2024）特別支援学級における主体的に学びを進める児童の育成を目指した一試み—生活単元学習「夏祭りをしよう」における自己調整学習の視点からの検討—. 日本教育公務員弘済会宮城支部.  
<https://www.nikkyoko-miyagishibu.jp/files/libs/1297/202410181048381256.pdf> 2025.8 閲覧
- 5) 文部科学省（2014）学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引（三訂版）」